

認知症の祖母から学んだこと

中 一

「病気なんて無くなればいいのに。」これは私や私の家族が毎日思うことです。

私には認知症の祖母がいます。ところが祖母が認知症になったばかりのころ、私たちは病気に気が付きませんでした。

私たちが祖母の病気に気が付いたのは、祖母に認知症の症状が出るようになって一ヶ月ほど経ってからでした。ある日、祖母が私のおばに向かって、こんなことを言いました。

「あなたは何でここにいるの。あなたはどこの誰なの。お家に帰りなさい。」

祖母は、自分の子供のことを忘れてしまったのです。それから少しずつ、祖母は私たちのことを忘れていきました。一方、私たちは、今まで体験したことが無いような、真っ暗などん底に引き込まれていくようでした。

しばらくすると祖母は、おかしい行動をとるようになってきました。

あるときはパン屋さんのパンを全て取ろうとしたり、あるときはよく分からない質問をしてきたりしました。そうかと思えば、ふいに元の祖母に戻ったり、私たちのことを思い出したりしました。そのたびに、私たちは悲しい気持ちになりました。祖母が認知症になってから、母は認知症について勉強しました。そして、認知症によいと言われる試しました。でも、祖母にどんなによいと言われる食べ物を食べさせても、効果は全くと言ってよいほどありませんでした。祖母に会うたびに、私たちは悲しくなりました。

でも、あるとき、毎回会うたびに悲しんでいても仕方がないと、私たちは気が付きました。

そこで、私たちは、今の祖母を受け入れることにしました。そうすることによって、あまり悲しくならないようになりました。例えば、祖母におかしな質問をされたとき、前まではとまどってしまったり、悲しい気持ちになったりしました。でも、しっかりと質問に向き合おうと、意外と面白くて、今では祖母との会話が楽しくなりました。他にも、祖母が腕を上下に動かして、不思議な動き

をしていたとき、何をしているのか尋ねると、
「いざというときに備えて、鍛えているのよ。」

と言うので、思わず私は笑ってしまいました。このように、受け入れることによって、祖母といることが楽しくなりました。

それでも、私は祖母が認知症になってから不快だと感じる事が一つだけあります。それは、学校で忘れ物をした人や、発言する内容を忘れてしまった人に、

「お前、認知症じゃない？」

と言う人がいることです。

認知症はよく知られている病気だと思えますが、詳しく知っている人はあまりいないでしょう。認知症は、皆さんが思っている以上に重い病気です、薬を飲んでも治りません。

認知症という言葉に敏感になっていた私は、その言葉を聞かされた時に怒りと悲しみの気持ちでいっぱいになりました。怒りの気持ちがわいたのは、認知症で悲しんでいる人がいるのに、何も考えずに、認知症のことをばかにしたような言い方をしていたからです。また悲しい気持ちがあつたのは、認知症のことを理解している人が少ないと感じた

からです。

そこで、私はこんなことを考えました。「なんで病気ってあるのだろう。病気だけでも苦しいのに、なんで何気ない一言にまで苦しめられないといけないのだろう。」

私は病気が大嫌いです。何も悪いことをしていない人を苦しめる病気が大嫌いです。けれども、私は医者ではないので、直接何かをすることはできません。しかし、一つだけ私にもできることがあります。それは、病気の正しい知識を広めることです。正しい知識を広めれば、病気に対する理解が生まれ、軽々しく、

「認知症？」

と言って、人をばかにすることが減ると思うからです。そして、私のように悲しい思いをする人が減ると思うからです。

だから私は、将来、病気の正しい知識を広められるような職業に就きたいと思えます。そして、悲しい思いをする人が減り、少しでも皆が気持ちよく暮らせる社会を築いていきたいです。